

平成 30 年度 霞ヶ浦学講座 第 9 講 実施結果

実施日時：平成 30 年 11 月 11 日（日）13:30-16:00 参加者数：31 名

場所：霞ヶ浦環境科学センター多目的ホール

テーマ：「座談会：世界湖沼会議を終えて」

要旨： 第 17 回世界湖沼会議が閉幕した。今回の講座は座談会形式で、市民として参加した方々に、会議の印象や体験等を気軽に発言していただき、「今後の霞ヶ浦」につなげる意義があった。講座担当者からスライドで、プレ会議としてのサテライト会場の様子、学生会議の成果、開閉会式、本会議の各会場、エクスカージョンなどの状況が説明された。これを受けて講座参加者からは「サテライトかすみがうら会場は帆引船をアピールする場として有効だった。霞ヶ浦の恵みである地元食材を見直した。持続可能な生態系サービスを活用し、霞ヶ浦を中心としたビジネスを盛んにしたい」「湖畔サイクリングは、期待がもてる」「トライアスロン大会は泳げる霞ヶ浦を目指す上で有効」などの意見が出た。

学生会議については、「学校と市民団体との連携が素晴らしい事例があった」「自主的に小中高生が水辺環境の調査研究に取り組んでいる」「全国各地の生徒・学生の活動を知って感心した」「若い人の新鮮な感覚に感動した」などの感想が出た。霞ヶ浦高校の先生と生徒からは「世界湖沼会議を契機に、学校の身近なところから、水環境を大切にする活動を工夫していきたい」との表明があった。

つくば国際会議場での本会議の印象は、「統合的流域管理をテーマにした第 9 分科会は素晴らしかった。アフリカやインドの湖沼で取り組まれている実践例は、有機堆肥の利用が生態系や地域経済へ与える好影響を報告したもので参考になった」「諏訪湖や琵琶湖の活動に学ぶべきだ」という発言があったが、一方では「研究報告ばかりで、提言が少ない」「展望が見えてこない」「先人たちの努力が取り上げられていない」などの意見も出た。また「サテライトつちうら会場では初日こそ盛況だったが、その後のポスター展示会場では市民の姿がほとんどなく残念だった」との感想も出た。

ポスト湖沼会議としては、「霞ヶ浦独自の湖沼会議を定期的で開催してはどうか」「小中高生への活動支援を継続してほしい」という意見が出た。予定を 30 分超過しても時間が足りず、十分に発言者の意を尽くせなかったが、世界湖沼会議の成果を今後引き継ぐことの大切さを実感する座談会となった。

